

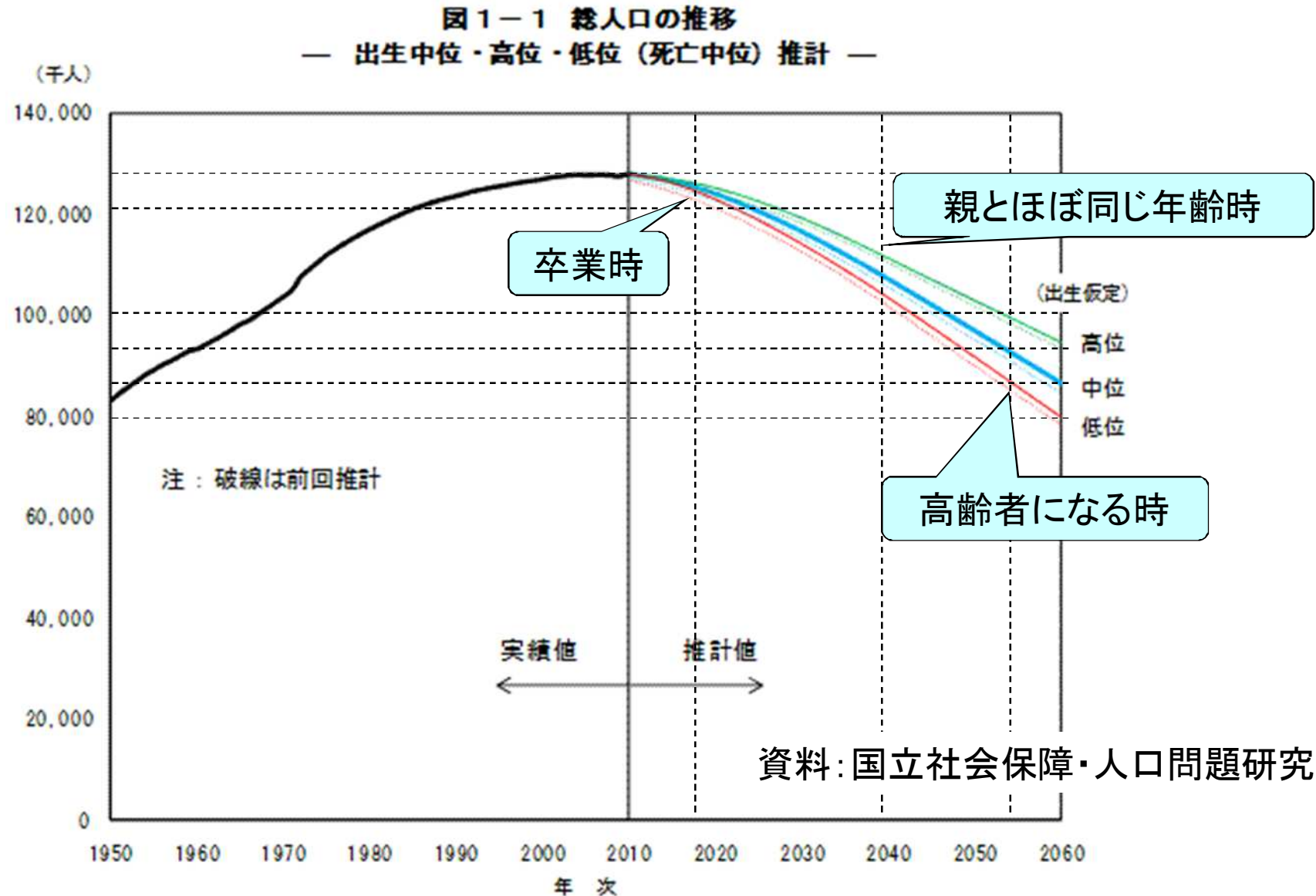
梶谷俊夫氏のご報告
**「多世代ミックス居住型
沿線まちづくりに関する研究
～東京圏を事例にして～」
に対するコメント**

相模女子大学 人間社会学部
社会マネジメント学科 教授
湧口 清隆

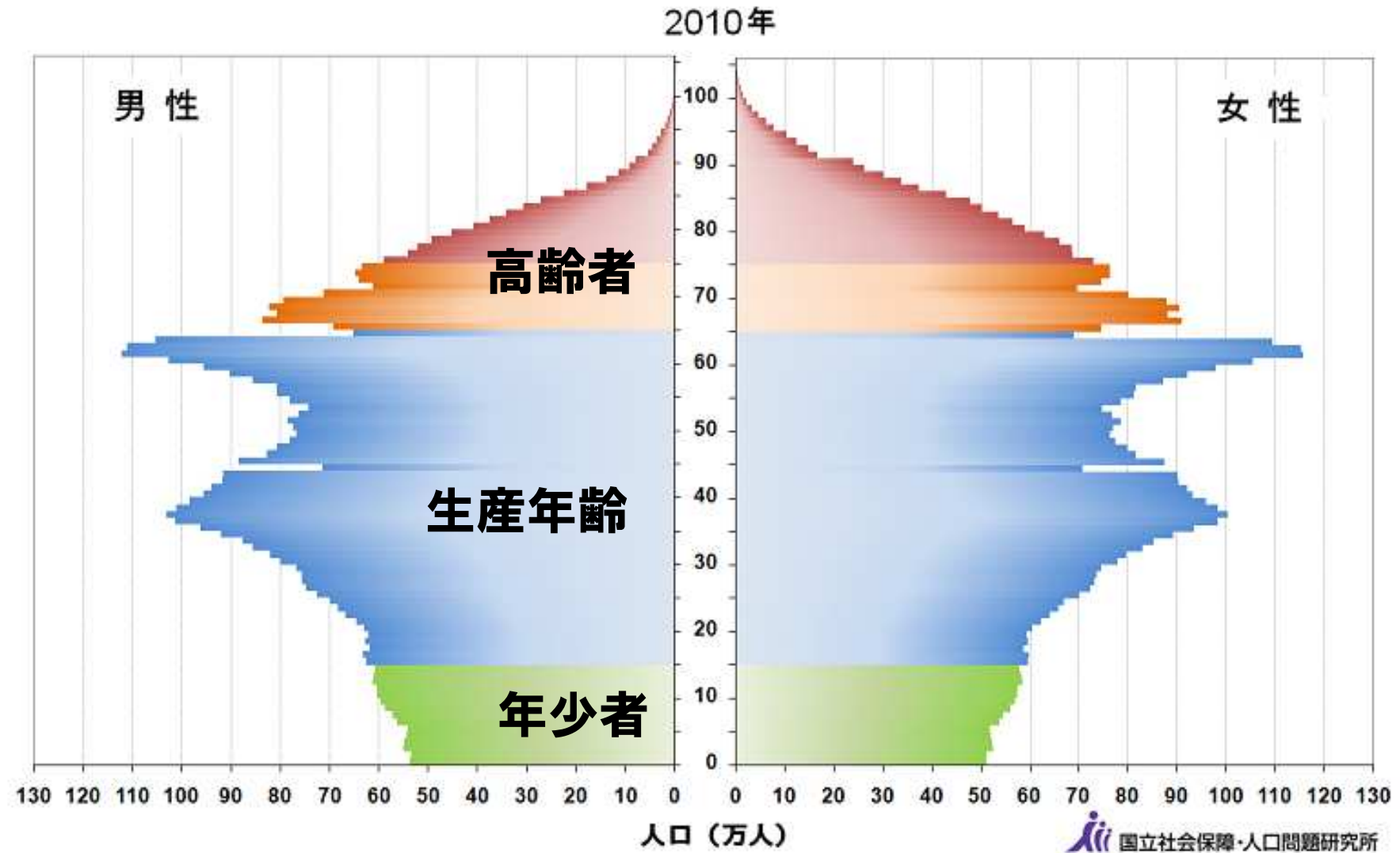
ちょっとその前に

相模女子大学人間社会学部社会マネジメント学科
1年生の必修科目「地域で学ぶ社会のしくみ」で
学生に配布している資料と鳥取実習の写真から

(参考1) わが国の人口の変遷と将来予測

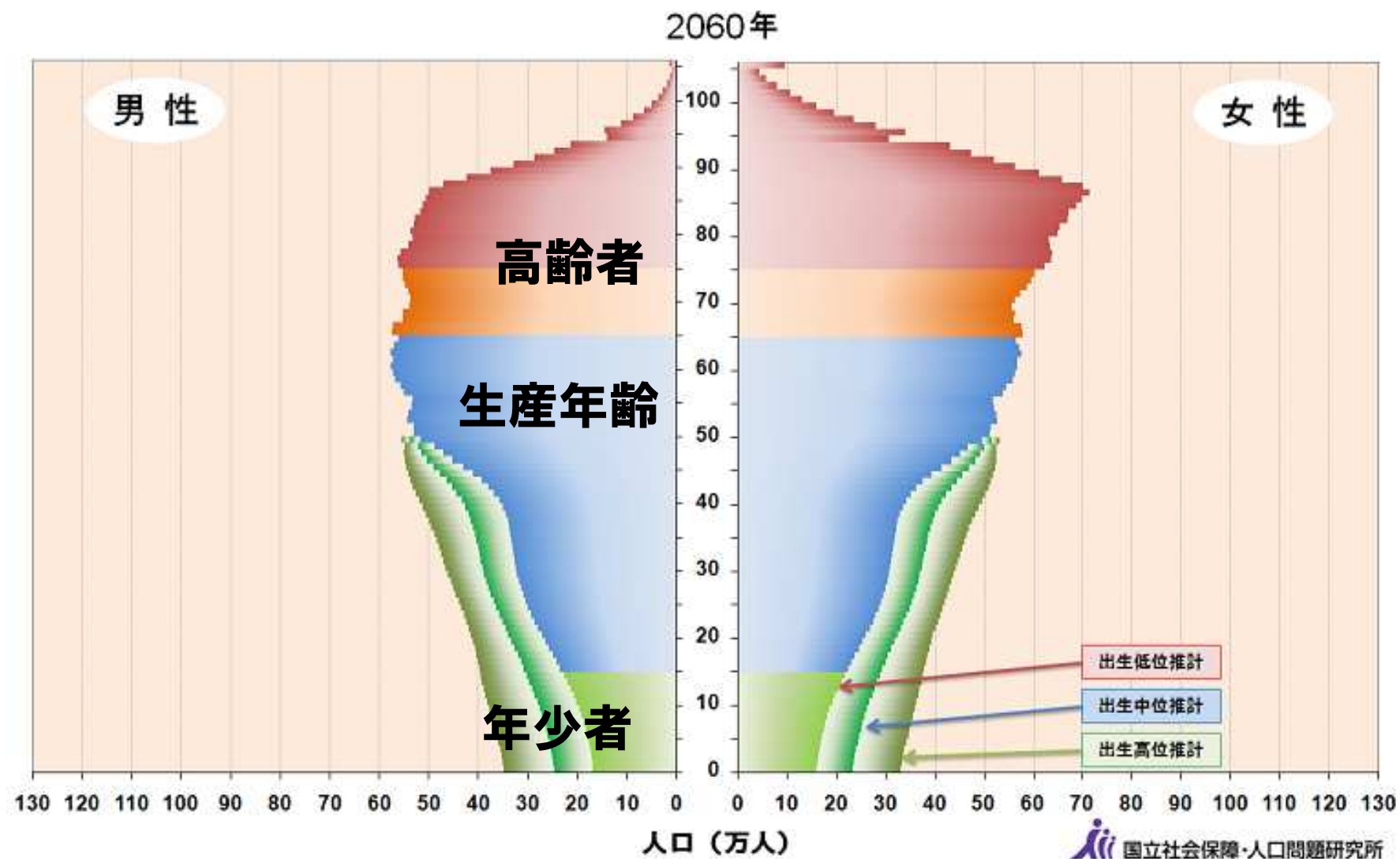


(参考2) わが国の現在の人口ピラミッド



資料：1920～2010年：国勢調査、推計人口、2011年以降：「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」。

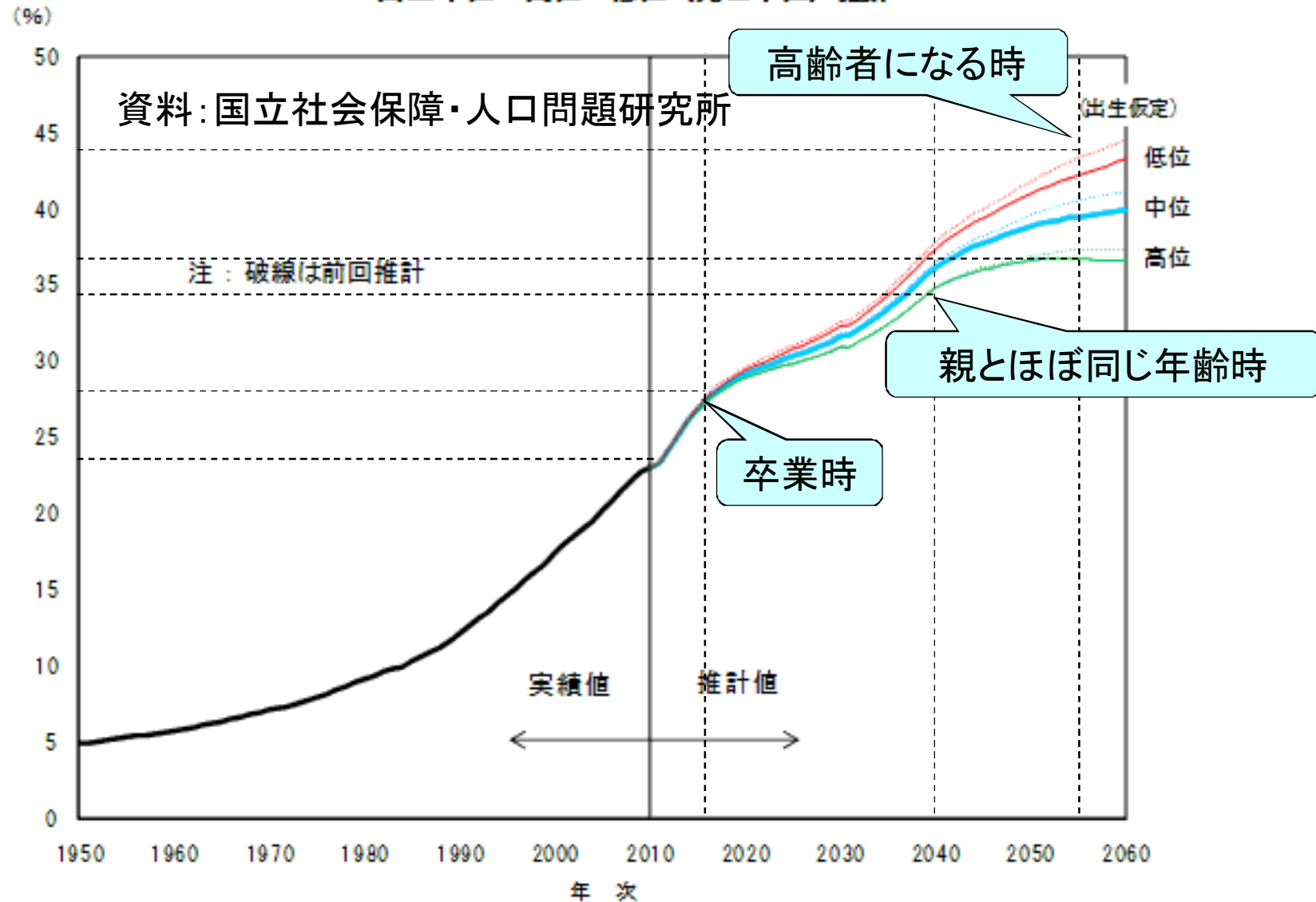
（参考3） わが国の将来の人口ピラミッド（2060年）



資料：1920～2010年：国勢調査、推計人口、2011年以降：「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」。

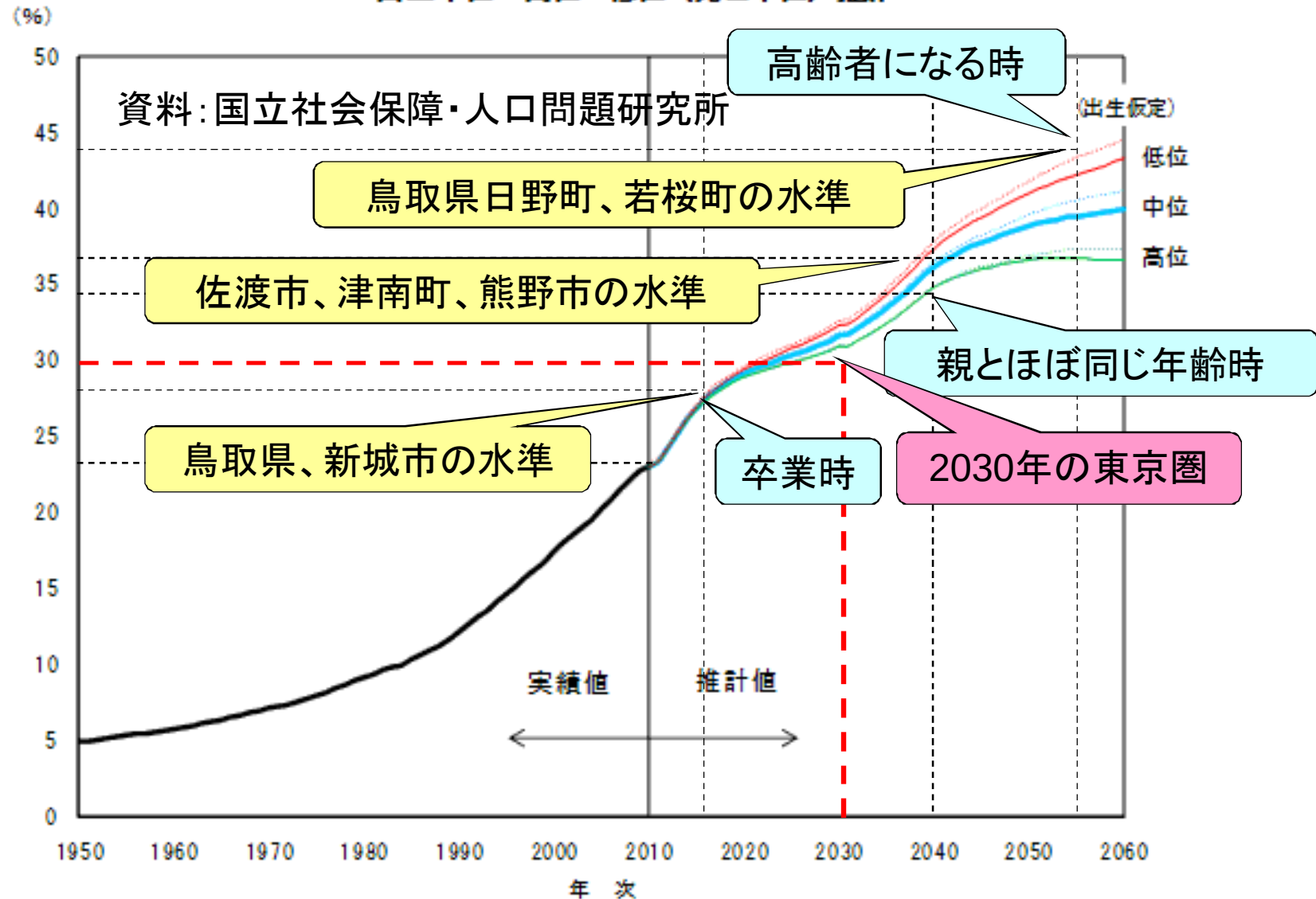
(参考4) わが国の高齢化率の推移

図1-2 老年（65歳以上）人口割合の推移
— 出生中位・高位・低位（死亡中位）推計 —



(参考5) わが国の高齢化率の推移

図1-2 老年(65歳以上)人口割合の推移
— 出生中位・高位・低位(死亡中位)推計 —



2012年9月15日
因美線685D車内にて



2012年9月14日
鳥取県倉吉市にて



2012年9月15日
若桜鉄道若桜駅にて



2012年9月15日
若桜鉄道駅にて

梶谷報告の背景と概要

- わが国に超高齢社会が到来。
- その中で求められるまちづくりは何かを追求。
- 梶谷氏の答え
 - 急速に高齢化しないようなまちづくりが必要
 - 世代バランスを意識したまちづくりが必要
 - コンパクトな都市構造が必要
 - 大都市圏では高密な鉄道ネットワークが形成済み
 - 駅を中心としたまちづくり
- 多世代ミックス居住型沿線まちづくり
 - 多世代が混住する利点
 - 世代間交流の利点

梶谷報告の構成

- 東京圏の人口・人口推移分析
 - 高齢化しやすい路線と高齢化しにくい路線が混在
- その違いの要因は何か？
 - 就学・就労地域へのアクセス
 - 住宅供給の状況（新しい住宅の供給が鍵？）
 - 若い世代に魅力的な環境（商業施設・交通利便性・自然）の有無
- 多世代居住を促進する施策の体系化（次ページ）
- 体系に沿って国内外（外国はドイツ・シュトゥットガルト）の事例を紹介、整理
- 提言（次々ページ）

多世代居住を促進する施策

- 高齢化住宅・地域における若い世代の転入促進策
 - 住宅の供給 自、鉄、D、民
 - 転入時の優遇策（助成、優先入居、工夫） 自
 - 若い世代に魅力的な地域づくり 自、鉄、D、民
- 多世代が居住する住宅・地域づくり
 - 多世代同居型住宅の供給 自、民
 - 集合住宅・地域での住宅の工夫 自、D
 - 親族の近居促進 自、D、民
 - 多世代に魅力的な地域づくり 自、鉄、民
- その担い手は？ 各担い手しかできない役割が存在
自：地方自治体、鉄：鉄道会社、D：デベロッパー、民：民間事業者

提案

- 多世代ミックス居住のための様々な施策の推進
- まちの顔・拠点としての駅（周辺）の充実
- 自治体と鉄道事業者の連携強化（住民・大学・NPO・民間事業者などの連携）

質問・論点

- 多世代ミックス型沿線まちづくりが進むと、地理的条件(地形、気候、自然環境)を除き、どのまちも金太郎飴のように同じ「まち」が形成されるのでは？
 - 総人口が減少するなかで、多世代ミックス型沿線まちづくりはゼロサム・ゲームなのでは？
 - 各担い手(自治体、鉄道会社、住民、大学、NPO、民間事業者など)で異なる利害、タイムスパン(反応速度、時間に対する視点)をどのように調整するのか？ 協定そのものが空文化するおそれがあるのでは？
- どのようなしくみづくりが必要か？